2010.9 vol.13

MORI MORI PRESS

モリモリプレス

September 9 2010 秋号

県政報告 埼玉県議会議員 森田としかずニュースレター

www.morita-toshikazu.com

森田としかず 検索

moritter 森田のつぶやき mori_morita

発行／埼玉県議会自民党議員団

tel.048-530-6001
森田としかず事務所（通称：モリモリオフィス）
〒360-0831 熊谷市久保島1003-2
fax.048-530-6002
平日 9:00～17:00（土・日・祝日はお休み）

討議資料

森田としかず 埼玉県議会6月定例会にて一般質問！ 登壇!!!

埼玉県議会6月定例会が、7月14日（水）から8月4日（水）まで開かれました。

さらなる植樹運動の展開を呼びかける！

温暖化に対応した作物の導入例のマンゴー

1 一人一本植樹運動の更なる推進について

●一人一本植樹運動の2年目の展開、あるいはこれ以降の展開に対して、知事の具体的なお考えをお聞かせ願いたい。

〈上田知事答弁要旨〉
個人を中心とした「植樹エントリー制度」に加え、民間企業も対象にする制度に拡充を図っていきたい。また、「みどりづくり協力隊」による活動を民間のイベントにも拡大していきたい。「彩の国みどりのサポーターズクラブ」を近々に設立する。これらの取組を通じて植樹運動のムーブメントを加速させたい。

森田はこう考える！
私が一昨年度の一般質問において提案した「一人一本植樹運動」。早速県は事業化し、一年間100万本の植樹をする計画を立てています。昨年度の実績はおよそ90万本。目標には達しませんでしたが、まずまずのスタートを切ることができたと考えます。今後、各個人、事業所での取り組みを支援することで、今年度は100万本の達成に向けて、頑張りましょう!!

植樹運動の今後の展開

「1人1本植樹」推進を

森田実和氏（自民、熊谷市）

【上田知事】今年の時点で参加してもらった約年10月から始めた「植樹エントリー制度」を充実させ、植樹活動を行う民間企業も対象にする制度に拡充したい。議員「彩の国みどりのサポーターズクラブ」を近々に設立する。さらに植樹参加みどりの再生を支える体制づくりとして「彩の国みどりのサポーターズクラブ」を近々設立する。同クラブは民間企業団体も加入に参加してもらい、会員相互の交流や情報交換を通じて、植樹活動を広げていくもの。これらの取り組みを通じて植樹運動のムーブメントを加速させたい。

植樹運動の今後の展開についての記事 ～埼玉新聞 平成22年7月27日～

2 「エキナカ」と駅周辺商店街の連携について

●駅構内の店舗と周辺の商店街あるいは大規模店舗等との共存策について伺いたい。

〈産業労働部長答弁要旨〉
共存策の例としては共同イベントやスタンプラリーの実施、共同クーポンの発行などが考えられ、相互にメリットがある。県としては、今後「エキナカ」と駅周辺商店街の連携が進み、互いに発展できるよう支援していきたい。

森田はこう考える！
電車の乗り降りのついでに買い物ができる「エキナカ」。確かに便利ですが、ますます中心市街地の空洞化が進んでしまいます。「エキナカ」のお客様をうまく駅周辺の店舗にも招き入れることができるよう、積極的に仕掛けていく必要があります！

3 1日保育士体験の推進について

●1日保育士体験をさらに推進していくために、どのような方策を考えているのか。特に、公立については早急に実施すべきと考えるが今後の展望を伺いたい。

〈福祉部長答弁要旨〉
ミニコミ紙への掲載やポスターの提示で、県が積極的に推進していることを周知した。公立については、未実施のところに直接訪問して実施を働きかけ、早急に実施されるよう努力していきたい。

森田はこう考える！
保育園、幼稚園で子どもたちがどんな生活をしているのか、保育士の先生方がどんな苦労をしているのか、実際に体験していただくのが保育士体験です。お父さんも、お母さんも、ぜひ一日休みを取っていただいて、体験してみてください！

4 気候温暖化に対応した新規作物の導入について

●熱帯原産の作物・品種でどのようなものが現実的に生産できそうか。気候温暖化対応農業プロジェクト報告書にまとめた内容のその後の状況と併せお聞かせ願う。

〈農林部長答弁要旨〉
マンゴーと同様に、パッションフルーツやアセロラ、アボガド、パパイヤなどは栽培できるものと考えられる。栽培の場所や方法、品質、ほかの作物との採算性の比較など研究を重ねていきたい。

森田はこう考える！
温暖化で脚光が当たる一方、冬の暖房費や苗代など、課題も多い新規作物です。採算が取れるまでには試行錯誤が必要ですが、物心共に支援し、大事に育てていきましょう!!

5 農業大学校の移転について

●農業大学校の移転にあたっては、全体的な方向性として、どのようなカリキュラムや施設整備にしていくのか。

〈農林部長答弁要旨〉
移転先の立地条件を生かしてカリキュラムの質的充実を図り、必要な施設整備をしていきたい。移転整備により、魅力ある、また農業と地域の様々な人々や産業とが深く結びついていることを学べる農業大学校となるよう、鋭意努力していきたい。

森田はこう考える！
今年度中に具体案を練り上げなければならないのですが、財政難の折、なかなか規模を拡大することが難しい状況です。引き続き、施設設備、農場の充実を求めてまいります!!

6 学校給食における地産地消の推進について

●学校給食において、県産農産物の使用割合を上げることが、子ども達の食育のためにも重要と考えるが、今後、県としてどのような姿勢で臨むのか。

〈教育長答弁要旨〉
今後さらに、学校栄養士等を対象とした調理講習会においても、地場産物を活用した魅力的な学校給食の紹介に力を入れたい。農林部とも連携しながら、学校給食への県産農産物の活用を一層促進していきたい。

森田はこう考える！
季節に応じて、地元で穫れるものを食べる。学校給食でも、そんな当たり前のことを当たり前にすることが大切です。食育と地場産物の消費拡大の両面で、給食の改善を求めていきます！

詳しいやり取りは、県議会のホームページをご参照ください。録画がご覧いただけます。http://www.pref.saitama.lg.jp/s-gikai

森田の森づくり Morita no Morizukuri

植樹カウンター稼働中!!

8月16日現在で、100万本達成!!

昨年度の実績は90万本!!

710万県民の数と同じだけの植樹をしようという「一人一本植樹運動」。1年間に100万本植える計画を立て、実施中です。初年度にあたる平成21年度は90万本の植樹を達成しました！

また県では、先般「彩の国みどりのサポーターズクラブ」を発足させました。県民の皆様が独自に植樹の取り組みを進められるよう、さらに積極的にご支援いたします!!

赤城神社（今井） 4/11

雀幸園にて500本の植樹 7/3

さくら運動公園にて育樹祭 7/17

多くの関係者が集い植樹した本庄総合公園 5/16